

日出国の教育目標や生徒たちの学園での様子を発信する年3回発行の情報紙です。



学園通信日出

学園通信「日出」Vol.44 2024年9月30日発行

<http://www.hinode.ed.jp/>

発行：学校法人日出国

〒272-0824 千葉県市川市菅野3-23-1

TEL 047-323-3000

FAX 047-324-0921



日出国公式キャラクター
日和かつば



90th
日出国
語りた夢があります

2024.10
Vol.44



特集
1

2024年度入試
日出国

進学白書

特集
2

幼小合同運動会
中・高体育祭

Making

日出国 卒業生からのメッセージ

体育祭、日出祭での美術活動で
自作の楽しさを学んだ学園生活



東京藝術大学美術学部
絵画科油画専攻
在学中
佐藤 弥太郎
Satou Yatarou



現在私は、東京藝術大学入学後に受けたモザイクなどの壁画に関する実習と、もともと興味があった刺青から着想を得て、立体の表面に描画することを主軸にした制作をしています。立体の特徴である「すべての面を常に見ることはできない」という部分を、表面に描画することで強調し、日々の中で取りこぼし置いていくもの／^{おぼろ}靡げだが確かにある密やかなものを表現できないかと考えています。

日出国高等学校在学中は、描きたいものをただ描いていましたが、大学に入り、「誰にどうやって自分が見せたいものを見せるか」ということにすごく苦労しています。「自分が描く絵は最高だな!」と思うのですが、

自分が感じている“最高の感じ”が意外と伝わらなかつたり、見せ方を決められるのは自分だけなので工夫していますが、難しいですね。その工夫の結果、最近は立体の表面に絵を描くことをやっています。なかなか「これが正解」というものは見つかっていませんが、挑戦していくだけです。

学園生活で印象深かったことは、2m×4mの日出祭の看板(左写真)を描かせてもらえたことです。やりたいことに対してチャンスがもたらされたことがとてもうれしかった記憶があります。2回も描く機会をもらえて、日出国の校風に助けられていたと思います。

体育祭の応援団Tシャツ作りも思い出に残っています。無地のTシャツを買ってペイントは自分たちでデザインを考え、ステンシルで全員の名前を入れて大変でしたが、自作の楽しさはここで学んだ気がします。ほかに、日出祭の

店のロゴデザイン、看板、とにかくいろいろ形で美術をさせてもらっていたなど、卒業してからより感じます。

これは私の持論ですが、やりたいけれど難しいことは、出来るだけたくさんの人に言いふらすがいいと思います。言いふらしているうちに、それを叶えてくれる人に出会ったことが何度もありました。台湾に行きたいとInstagramのプロフィールに書いていたら、台湾関連の展示が決まったり。「言うだけ番長」も悪くないと思います。

最後に、在校生の皆さん、第2の我が家である日出国で多くの方々のサポートを受けながら、自分の夢を実現すべく、あきらめずに突き進んでください。

2017年、日出国高等学校入学。2020年、卒業。
2021年、東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻入学。在学中(受賞歴)久米桂一郎奨学金 2022年度受賞

巻頭言

大きな躍進を遂げた
2024年度大学入試実績



日出国中学校・高等学校
進路指導部部長 数学科
竹村 和晃

2024年度の日出国高等学校の大学入試において、国公立、難関私立、医歯薬科系といった難関大学合格者数は、卒業生188名中72名に達し、延べ数では187名がこれらの

大学に合格できました。

注目すべきは、難関大学への合格者割合が30%を超えたことです。これは私が把握している限り初めてで、生徒たちが最後まで粘り強く努力し、自身の信念を貫き通した結果であると考えています。

合格者72名の内訳を受験方式別に見ますと、総合型選抜*1での合格者7名、学校推薦型選抜*2の公募制での合格者3名、学校推薦型選抜の指定校制での合格者4名で、残りの58名が一般選抜での合格者でした。

昨今、総合型・推薦型選抜といった年内入試募集定員が増加しており、年内入試で大学に入学した生徒の割合は半数を超えています。しかし、難関大学に関しては、総合型・推薦型選抜の定員は多くなく、求められる活動履歴や実績基準が高いため、合格を勝ち取るには相当の準備が必要となります。このこ

とから、本校では難関大学の一般選抜受験での合格者が圧倒的に多くを占める結果となりました。

自身の進路実現に向けては、高校3年間に限らず、小学校、中学校を含め、自身が積み重ねてきたことと志望先を踏まえ、どの受験方式で臨むかが重要となります。本校では、総合型・推薦型そして一般選抜の小論文試験の対策を、総合型選抜の出願開始1年前の高2の9月より開始します。他校と比較して早期からの計画的な準備が、多くの合格者を輩出した大きな要因の1つと言えます。

さらに、小規模校ならではの強みを活かし、普段からの対話や手帳を通じたコミュニケーションを重視した個人の状況に応じた指導があります。各生徒の個性や能力に応じたきめ細やかな指導を行い、生徒が自分のペースで成長できる環境を提供しています。このよう

な指導体制が、生徒の自信とモチベーションを高め、自分の可能性を最大限に発揮するための基盤となっています。

また、昨年度を振り返ると、多くの生徒が自分の夢をあきらめず、最後まで挑戦し続けたことが、良い結果をもたらしたと言えます。目標に対し、安易に妥協せずに、初志貫徹して努力を重ねることの重要性を、改めて強く実感させられました。

これからも、生徒一人ひとりの夢の実現を支えるために、本校独自の状況に応じた指導独自の強みを生かした進路指導を、より一層強化してまいります。そして、生徒が自身の夢を追い続け、その夢を実現するために必要なサポートを提供していく所存です。

保護者の皆様には、これまで同様、温かいご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

*1 総合型選抜：出身高校の推薦書類は不要だが、本人が記載した書類の審査・面接・小論文等で評価される。
*2 学校推薦型選抜：出身高校の調査書や推薦書などの書類審査に加え、面接・小論文等で評価される

特集1 《2024年度 日出学園進学白書》

特集1
2024年度入試 日出学園進学白書

この春、日出学園高等学校を卒業した卒業生は、年度目標の合格率を大きく上回る結果を示し、自身の目指す進学先へと進みました。また、小学校から日出学園中学校への内部進学者は40%を超え、外部中学校を受験した児童たちも、難関校への進学実績を残しました。今回の特集は、中学校・高等学校、小学校で、実際に進路指導、学習指導にあっている教員に、こうした進学実績の躍進を産むに至った要因、指導の中身ついて、総括していただきました。前頁の「巻頭言」と合わせてご覧ください。

中学校
高等学校

2024年度入試、難関大学の現役合格率38%を達成
生徒1人ひとりへのきめ細かな進路指導、学習指導が結実

巻頭言にもありますように、2024年度の大学入試では、全卒業生のうち、30%以上の生徒が難関大学合格を果たすことができました。大学入試で良い結果(生徒1人ひとりの希望する結果)を得るために、中高では、進路指導部主導による、進路講演会や、職業を語る会、首都圏模試、受験報告会等、段階的かつ継続的な進路行事による意識付け、情報提供を行うとともに、学年では複数回の面談や日常での会話を通じて、生徒の思いを理解し、目標を明確にした上で、生徒本人、ご家庭と一丸となって入試に向かえるよう取り組んでいます。そうした生徒本人と学校、そして保護者の皆様との密なコミュニケーションが結実し、2024年度の大学入試での好結果が生まれたと言えるでしょう。

学習状況の把握に
「私の記録」「今みらい手帳」を活用

生徒の進路についての情報収集は、本校への入学直前から始まっており、入学時に入手可能な生徒情報をフル活用し、その生徒にふさわしい担任のクラスに出来る限りは入れるようクラス決めをし、入学当初より、受験は団体戦と考え、同じ部活に所属する生徒を複数人ずついれ、目標も共通点のある学級編成

をしています。生徒の学習の進捗状況の把握には、中学は「私の記録」を、高校では「今みらい手帳」を最大限に活用しています。特に、高校生には、大学入試から逆算した計画を長期で、さらには学期ごとに、そして各教科では1週間ごとに計画を立てさせ、どのように実践したかを図示とコメントと時間記録の3本立てで記入し提出(2024年3月卒業生は毎日提出)。教員はそれに対しコメントや必要に応じて声掛け、面談等でフィードバックしています。もう少し頑張ればGMARCHに手が届きそうな生徒を含め、成績が伸び悩んでいて希望する生徒には、連日放課後残ってもらい、毎日英単語を200個覚える会を開催しました。学年主任は学年全体の生徒の状況把握が求められます。例えば高3になって受験教科を

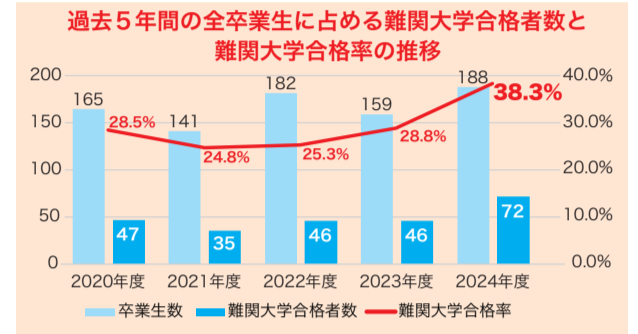


歴史から政経に変更してクラス替えとなった生徒には、変更により遅れている社会科の学習状況把握のため、4月当初にそれぞれの生徒と面談をし、1人ひとり学習方針を立てて学習に励んだ結果、政経に変更した進学コースの生徒は7月模試ではほぼ全員が政経偏差値70となりました。

生徒の希望、保護者の意向に沿った
細やかな進路指導、生活指導を

複数教科で難易度の高い学習が要求される最上位ランクの国立大学や医学部医学科への受験希望者の場合、なるべく早い段階(できれば中学の段階)で、合格から逆算した筋道立った学習が不可欠です。東邦大学医学部医学科に現役合格した生徒

の場合、中学1年の6月の保護者面談時に、医学部への進学について生徒本人とご家庭のご意向が一致していることを担任側が確認出来たため、その目標達成のためにはいつまでに何の教科をどのレベルまで上げるか、明確な道筋を示し、生徒本人もご家庭もその道筋に沿って学習をスタートさせ、高3までサポートしました。



また、厳しい運動部に所属し、その部長を高3の7月まで続けながらも、東海大学医学部医学科に現役合格した生徒の場合、部活引退後に効果の出る予備校の相談を受け、入試まであと半年しかない当時の学力では、集団指導の予備校では間に合わないため、個別指導の予備校に替えることを提案したところ、ご家庭の協力も得られ、すぐに実践した結果、現役合格を果たすことができました。

これらのすべてに通じているのは、日出学園ならではの、生徒個々の情報理解と、それに基づいた細やかで丁寧な進路・生活指導です。そうした指導を機能させるべく、教員も研鑽を惜しみません。そこにご家庭のご理解ご協力があるからこそ、生徒1人ひとりに合った進路指導が実現します。

難関大学合格には早めの準備が有利です。校種を問わず、日出学園の教員に進路のご相談もいただけたらと存じます。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(日出学園中学校・高等学校 国語科 坂井郁子)

小学校

内部進学率は40%超。難関中学校への進学実績は2024年度入試も堅調
内部進学、外部進学問わず、全児童の学力の底上げに注力

「内部進学、外部受験、どちらがよろしいでしょうか？」

「(内部進学が決まった後)一般受験で入学した子たちとの学力差は、大丈夫でしょうか？」

「ウチの子に合った中学校はどこの学校でしょうか？」

「〇△中学校と◇◎中学校、どちらの学校を受験すればよろしいでしょうか？」

6年生の担任になると、保護者の方からは進路に関する相談をたくさんいただきます。

進路指導部は、児童一人ひとりの可能性を引き出し、中学進学を実現するために支援を行っています。

日出学園小学校に入学する児童については、保護者の意向で入学当初から中学校受験を志望するご家庭が多数いらっしゃいます。本校のこれまでの進学実績をみても、難関校といわれる中学校を多くの児童が受験し、合格しています。*

一方、当初は外部受験を目標にしていた児童や保護者も、隣接する日出学園中学校・高等学校の生徒や教員の人柄、学校の校風に触れて、内部進学に進路を変更するご家庭も少なくありません。2024年度入試の実績は、卒業生102名中、内部進学者は45名で、内部進学率は44.1%でした。

自信を持って前向きな気持ちで
中学受験に臨めるような指導を

このように、卒業後の進路は外部中学校へ進むか、内部進学かの2つになりますが、外部受験を目指す児童の場合、目標とする中学校への合格を果たすためには、何よりも、児童本人、保護者の意思確認やご家庭との連携が不可欠であり、個人面談を通じて、学習面や生活面での支援を行い、児童の学力や興味、将来の夢に応じた進学先と一緒に考え、適切なアドバイスをしています。これにより、単に学力を向上させるだけで

なく、児童が自分に合った学校選びを通じ、さらなる成長と充実感を得られるようにしています。また、一昨年度より「放課後自習室」を設け、教員が学習支援を行っています。

内部進学を希望する児童については、5年1学期と3学期、6年2学期の、計3回の内部進学試験で、基準点(平均点の5割)以上が延べ12教科中(国語・算数・理科・社会×3回)7教科以上クリアすることを目標に、指導にあたっています。

内部進学の場合、中学に入って外部から入学した生徒と学力で差が出ないよう、学力の底上げを図るとともに、常に向上心を保ち続けることを心がけて指導しています。

私たちの目指すところは、児童が自信を持ち、前向きな気持ちで中学受験に臨むことです。そのためには、単に学力を向上させるだ



けでなく、心の準備やモチベーションの維持も重要です。進学の支援に留まらず、児童一人ひとりの未来に対する希望と可能性を広げることを目指しています。これからも、成長を第一に考え、最適な進路選択ができるように全力でサポートしてまいります。

(日出学園小学校 教務部部長補佐 進路指導部 大熊一也)

*至近3年間の中学校合格実績は、QRコードから小学校ホームページをご覧ください▶



特集2 《幼小合同運動会 / 中学校・高等学校体育祭 Making》

幼小合同運動会



4月から始動する練習。テスト合格が目標

毎年、5月末の土曜日に開催される、幼小合同運動会。今年は6月1日の土曜日、多くの保護者の方々にご来場いただき、開催しました。各学年ごとにダンスや競技種目が行われますが、練習は4月下旬より体育の時間や運動会前2週間の特別日課(練習日課)での合同練習、予行を通じて完成度を上げ、技を磨いていきます。

低学年、高学年別の紅白リレーでは、4月の体育授業の50m走でタイムを計測し、男女2名の児童がリレー選手として各クラスから選出されます。5月に入るとリレー選手たちは全3回の放課後練習でバトンパスを繰り返し練習。高学年になると上級生らがアドバイスしながらチーム力を高めていきます。

ダンスの演目の中で、5年生のよさこいソーラン節や6年生のエイサーは体育科の新井先生が中心となって指導に当たり、4月後半より練習がスタートします。5月中旬に入ると、振り付けができてきているかどうかのテストが行われ、児童たちはそのテストの合格を目指し、本番直前まで熱心に練習に取り組めます。

運動会で伝統の演目、5・6年生による鼓笛行進も、一人ひとりの個別指導を実施しています。また鼓笛隊は行進しながら、隊列を変えて演奏するのが見どころ。音楽科の織間先生の指導のもと、クラスごと、学年ごとの練習や、体育館やグラウンドでの合同練習、予行での仕上げへと練習を重ね、隊列の完成度を上げていきました。



中学校・高等学校体育祭

4月オリエンテーションが体育祭のKickoff

6月に行われる中学校・高等学校の体育祭は、10月の日祭と並んで、生徒が主体的に活動する学校行事です。入学してまだ間もない新入生や、クラス替えて新たにクラスメイトとなった生徒たちは、体育祭に向けての練習を通じ、互いの距離が縮まり、クラスの団結力が育まれていきます。

体育祭に向けた始動は、4月の入学式直後のオリエンテーションがKickoffとなります。そこで体育祭や日祭の実行委員会のメンバーや各委員会のメンバー、また右図にあるような体育祭の「係」についても希望者を募り、クラスの中でそれぞれの役割が決まっています。

同様に、体育祭の応援団についても高校の4年生、5年生の生徒を対象に希望者を募集し、1組＝青団、2組＝白団、3組＝緑団、4組＝赤団、5組＝紫団が結成され、5年生から団長が選出されます。応援団は中学校から高校まで、それぞれの組を統率して応援・鼓舞するだけでなく、体育祭の人気プログラムの一つである応援合戦で、演目を披露します。その応援団の姿に憧れ、毎年入団を希望する生徒は少なくありません。

スポーツテストでリレー選手を選抜

体育祭のプログラムでは、クラス全員が参加するものとしては、中学1年生の「徒競走&玉入れ」、2年生の「タイヤ引きリレー」、3年生の「ハリケーン」だけで、各リレーや長

運動会を支える係と盛り上げ役の応援団

運動会での「係」は、運動会を滞りなく進行させる重要な役目です(右組織図参照)。開幕式・閉幕式で演奏する吹奏楽クラブ。4月に執行部がスタートし、場内アナウンスなど進行を務める児童会や、競技曲を流す放送委員、救護係を担当する保健委員は、担当教諭の指導のもと、それぞれの役目を担います。

また、会場係や用具係等、全部で8つの係についても担当教諭とともに5・6年生たちが引き受けます。それぞれの係は4月下旬には決まり、事前ミーティングや予行で当日の動きを確認して本番に臨みます。

運動会を盛り上げる応援団は、今年は4月22日の顔合わせ以降、紅組、白組に分かれ、合計17回におよぶ朝練習、昼練習が繰り返されました。大きな声出し、指先まで神経を尖らせた振り、太鼓の叩き方など、小山先生の熱い指導に団員たちも応え、回を重ねるごとに応援団らしさを増していきました。



児童と園児の「運動会がんばろう会」

幼稚園児の出し物は、年少は行進、年中はダンス、年長はパラバルーンです。入園して間もない年少は、列を組んで歩くだけでも至難の業。担当教諭は教室から移動する際に、列を組んで歩く訓練を繰り返し、運動会での行進へと形作っていきます。年中、年長も、それぞれの年代になって初めて挑戦するダンスやパラバルーンの練習を何度も積み重ね、プログラムの精度を上げていきます。

運動会の前の5月24日には「運動会がんばろう会」が開かれ、小学校2年生が手作りの招待状を持って幼稚園を訪問。幼小合同運動会への気運を盛り上げました。

幼小合同運動会に向けてのMaking映像はQRコードからご覧いただけます▶



特集2

幼小合同運動会 中・高体育祭 Making

1学期に開催される幼小合同運動会と、中学校・高等学校の体育祭。そこには、演技を披露し、技を競う園児・児童・生徒だけでなく、準備や運営、応援する「日出っ子」の姿があります。今回は運動会、体育祭の舞台裏を特集します。



縄跳び、綱引き、10人ムカデ競走(高校)はクラスから選抜されたメンバーが選手となります。メンバーの選出は、ゴールデンウィーク前後に行われるスポーツテストの結果によって、クラス内で協議し、決定されます。

こうして決まった係や種目別の選抜メンバー、応援団の本格的な活動は、5月中旬の中間試験直後から始まります。各種目の練習は、基本的には体育の授業で行い、体育科教諭の指導のもと、練習に取り組みます。特に長縄跳びやムカデ競走は、チーム一丸となつての団結力が試される種目。失敗のたび、生徒たちは互いに励まし合い、声を掛け合いながら、精度を上げていきます。

体育祭まで3週間にわたる応援団練習

リレーのメンバーは、学年が違ったり、係や応援団と兼任の生徒も多く、同じ時間に集まるとのバトンパスの練習は思うようにできません。そのため、お昼休みや放課後の限られた時間に、グラウンドやアリーナだけではなく、アトリウムのスペースを使ってバトン練習をするリレーチームの姿も見られました。

応援団の練習は、中間試験が終わった5月17日に初顔合わせとなり、事前に5年生らによって練られた今年

の演目などが紹介され、本番前までの約3週間、ほぼ毎日、放課後の時間を使ってダンスや演舞の練習に励みました。

団員は部活と掛け持ちの生徒も多く、夏の大会前の大事な練習の合間を見つけながら応援団の練習に参加する者も。思うように練習に参加できない生徒は、家でダンスや演舞の動画を見ながら振り付けをマスターするなど、本番前の6月6日の予行、6月10日のリハーサルに間に合うよう、練習を積み重ねていきました。

男子だけの部活の生徒は、女子生徒とのペアダンスを照れながらも、「最高っす!」と今を楽しんでいる様子。これも、体育祭ならではのMakingのワンシーンです。

体育祭の進行に欠かせない各係も担当教諭らの呼びかけでミーティングを重ね、6月6日の予行では、プログラムの進行に沿って、自分たちの役割を確認し、本番へ臨みました。予行ではムカデ競争の足止めの紐が外れるハプニングが続出し、本番ではその紐も改良され、滞りなく競技が進行しました。

コロナ禍以降、一昨年に続いてフル開催となった今年の体育祭。主役である生徒も、舞台裏を支える教諭も、そして観戦にご来校いただいた保護者の皆さんも、マスクのないそれぞれの顔からは、笑顔が溢れていました。

体育祭に向けてのMaking映像はQRコードからご覧いただけます▶



Topics / 2025年度募集要項

幼稚園

千葉県の人気キャラクター『チーバくん』が来園

左側から見ると千葉県の形をしているご当地キャラクター、『チーバくん』が5月16日(木)、日出学園幼稚園に遊びにきてくれました。チーバくんは2010年に開催された「ゆめ半島千葉国体」のマスコットキャラクターとして誕生。作者は市川市出身のイラストレーターであり絵本作家の坂崎千春さんです。

ホールにチーバくんが現れると園児たちは大喜び。いっしょに記念写真を撮ったり、「エビカニクス」を踊ったり、本園のある市川市はチーバくんの体のどの部分に当たるかのクイズや(市川市はチーバくんの口のあたりです!)



千葉県の形をしたチーバくん。耳の先が犬吠埼で、舌の先がTDL?

千葉県の特産品やスポットが描かれたパネルを使っての間違ひ探しゲームなどを楽しみました。

千葉県にもプロチームが誕生し、人気が増しているバスケットボールのフリースローゲームでは、チーバくんチームと中川先生・澤居先生チームが対決。みこと先生チームがゴールを決め、プレゼントのシールをゲットしました。最後はチーバくんとハグしてお別れ。千葉県のことに触れることができたイベントでした。

チーバくん来園の動画はQRコードからご覧いただけます▶



2025年度 新入園児・児童対象《学校紹介Event》開催

幼稚園 「夏の親子お楽しみ会」7月20日

幼稚園のホールを夏祭りの緑のように模様替えて、未就園児親子を招いての「夏の親子お楽しみ会」を今年も開催しました。1学期終業式を終えてすぐのこのイベントは、日出学園幼稚園の教諭と触れ合い、幼稚園の雰囲気親子でもらおうと企画さ



猛暑の日差しを避け、涼しいホールで昼日を楽しみました

れ、幼稚園の夏の恒例行事となっています。この日は猛暑でしたが、冷房の効いたホールで玉入れや金魚すくい、魚つり、プレスレット作りなどのアトラクションを親子で楽しんだり、『バナナのおやこ』の歌に合わせて、教諭たちといっしょにフラダンスを踊ったりと、楽しい時間を過ごしました。土曜日ということもあって、お父さん・お母さん、赤ちゃん、それにこの日終業式を終えた日出学園小学校に通うお兄さん・お姉さんなど、ご家族で参加する様子も見られました。来年の春には、さらに成長した子どもたちと入園式を迎えるのが待ち遠しいですね。

小学校 「授業体験会」6月22日

「日出学園小学校って、どんなところ?」「先生たちはどんな先生?」—そんな疑問について、幼児・親子で実際に体験して日出学園小学校を知っていただく「授業体験会」が、今年も行われました。

参加親子は、webによる事前申し込みで、1コマ2科目の授業で構成された8コマの中から1コマを選択、当日は約15分の授業を、2科目体験します。授業は普通教室、理科、図工、音楽、情報は各専用教室、読書は図書館、体育はアリーナや多目的室で行われ、幼児や親子は次の授業の移動中も、小学校の様子や設備を見ることが出来ます。



タブレットを使いこなす園児も

英語の授業はネイティブの先生とのIT

それぞれの授業は通常の小学校の授業内容を未就学児用にアレンジし、幼児たちが興味を持って15分間授業に集中できるよう工夫されています。

参加した中には、日出学園幼稚園の園児もいて、「わくドキ授業」ですでに小学校での授業を体験していて、小学校の先生との再会を喜ぶ姿もありました。

小学校 「親子体験会」8月24日

小学校が「おとぎの国」になって、未就学の子もたちを迎える「親子体験会」が今年も開催されました。今年は「アラジンと魔法のランプ」がテーマ。最初に視聴覚室に参加者が集まり、そこに魔法のじゅうたんに乗ったアラジンとジャスミンが登場。そこから参加者の皆さんは、校内に分かれているアトラクションをクリアしながらスタンプを集める、スタンプラリーに向かいました。

各教室に設けられたアトラクションを親子で楽しんだり、屋上プールの「アグラバーのオアシス」では、水着に着替えた子どもたちが水遊



お母さん手作りのアラジンの衣装で参加した園児



「アラジンと魔法のランプ」のキャラクターが勢ぞろい

びで暑い夏の日を満喫していました。先生たちもキャラクターになりきって、子どもたちと触れ合いながら、参加した親子以上に楽しんでいる様子。アットホームな

日出学園小学校ならではの体験会でした。「アラジンと魔法のランプ」の親子体験会の動画はQRコードからご覧いただけます▶



中学校 高等学校

プロ仕様のデザイン・映像制作アプリを実践 Educere! 『Adobe講座』開講

昨年11月、メディアルームのパソコンを、「生徒のノートPC、家庭用PCでは対応できない高度クリエイティブ環境の提供」を目標に、高性能パソコンへと入れ替え、併せて、多くのソフトウェアが標準装備されました。その中の「Adobe Creative Cloud」は、デザインや動画制作などでプロのクリエイターが使用する多くのアプリケーションが備わっており、ハイレベルなコンテンツ制作のノウハウを学習できる環境が整いました。

そして、今年度5月から6月にかけて、4回の

Educere!『Adobe講座』(土曜日午後・自由参加)が開講。講師は日出学園卒業生で、元パソコン部副部長だった加藤陽さん(デジタルハリウッド大学在学)が務め、参加した生徒たちはAdobeソフトを駆使しながら画像制作やロゴ制作、動画制作を体験しました(講座内容は下記表参照)。

今後は選択科目「情報II」で、Adobeソフトを活用していく予定です。プロのクリエイターへの扉が、いま開かれようとしています。Adobe講座の模様はQRコードからご覧いただけます▶



回・開催日	Adobeソフト	各ソフトウェアの特徴・用途	講座での学習内容
第1回 5.18	Photoshop フォトショップ	画像やイラストを高品質に変換できる、デジタル画像編集やデザイン制作のためのアプリケーション	素材画像を使ってレイヤー構造、簡単な写真合成技術を習得
第2回 5.25	Illustrator イラストレーター	イラストやロゴ制作のためのアプリ。ベクターアートワークにより、素材のサイズを自在に拡大縮小できる	前回のPhotoshopとの違いを学び、ツールを使ってロゴを制作
第3回 6.8	Premiere Pro プレミアプロ	映画やテレビ、SNSなど、ビデオコンテンツ制作のための最先端のビデオ編集ソフトウェア	動画のカット編集やBGMの入れ方を学び、動画コンテンツを制作
第4回 6.22	After Effects アフターエフェクツ	ビデオクリエイターが利用する、モーショングラフィックスやビジュアルエフェクト制作の標準ツール	グリーンバックの素材動画を使って、動画の合成技術を学習

St Paul's Anglican Grammar Schoolの生徒26名が5年ぶりに来校

オーストラリアにある、日出学園の姉妹校、St Paul's Anglican Grammar School(以下、St Paul's)の中高生26名が来校しました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、2019年のSt Paul'sの来日以来中断していた相互交流ですが、今年ようやく5年ぶりに復活。6月24日(月)~26日(水)の3日間、St Paul'sの生徒は中・高の1年、4年、5年の各クラスに分かれ、授業を受けたり、部活に参加して親交を深めました。英語部の部員の中には、相互交流が中断しても、メールなどでやり取りを続け、今回の来校でようやく対面を果たせた生徒もいました。最終日、St Paul'sの生徒は幼稚園を訪問。園児



日出のbuddy(世話係)とSt Paul's生徒と記念撮影

たちとフォークダンスを踊ったり、英語で歌ったりジャンケンをしたり、園児たちとの触れ合いを楽しんでいました。

来年は日出学園生徒がオーストラリアを訪問する番です。最後には、両校の生徒たちはともに別れを惜しみ、来年、オーストラリアでの再会を約束し合っていました。

St Paul'sの生徒の来校の様子はQRコードからご覧いただけます▶



黒松移植記念サイン除幕式挙行 8月20日

東京外かく環状道路(外環)建設に伴い、市川市のシンボルとも言える黒松が伐採されることになり、その黒松の保全のため、日出学園卒業生(69・71・73期)が小学校時代に黒松を種から育て、現在、菅野駅北公園に成長した黒松が植えられています。

その功績が市川市より称えられ、記念サインが北公園に設置されることになり、除幕式が8月20日、学園卒業生でもある田中市長列席のもと、執り行われました。式には黒松を育てた卒業生や在校生も参加。同窓会のような和やかな式となりました。



除幕式での記念撮影(プレートを挟んで写真左側が田中市長 右が青木学園長)

日出学園創立90周年 記念事業推進のための ご寄付のお願い

日出学園は今年で創立90周年を迎え、記念事業として、学園施設の一層の充実を図ることを目的に、皆様からのご寄付を賜り、事業を推進してまいります。

ご寄付については学園ホームページに手続き等を示しています。創立90周年記念事業にご賛同いただき、皆様からのご寄付のほど、よろしくお願い申し上げます。



日出学園 2025年度 募集要項

	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
募集人数	3年保育(3歳児): 約45名 2年保育(4歳児): 約10名	102名(男女) ※日出学園小学校からの内部進学者を含む	推薦入試: 50名程度 一般入試1期: 30名程度 一般入試2期: 20名程度	推薦入試: 20名程度(男女) 一般入試: 20名程度(男女)※日出学園中学校を除く(特進コース30名程度を含む)
願書受付	●Web: 2024年10月1日(火)10時~10月21日(月)15時締切 ※願書配布はありません。Webにて願書入力をしていただきます。	●Web: 2024年10月1日(火)0時~10月10日(木)12時締切	●Web: 2024年11月1日(金)~11月17日(日)15時締切 ●郵送: 2024年11月18日(月)までに必着 ●窓口: 2024年11月18日(月)までに提出 平日9時~16時 土曜9時~13時 ※日曜・祝日は除く	●Web: 2024年12月17日(火)~2025年1月9日(木)15時締切 ●郵送: 2025年1月11日(土)までに必着 ●窓口: 2025年1月11日(土)までに提出 平日9時~16時 土曜9時~13時 ※日曜・祝日は除く
試験日時	2024年10月25日(金)10月26日(土)	2024年10月16日(水)8時30分~	●Web: 2024年12月3日(火)~2025年1月19日(日)15時締切 ●郵送: 2025年1月20日(月)までに必着 ●窓口: 2025年1月20日(月)までに提出 平日9時~16時 土曜9時~13時 ※日曜・祝日は除く	●推薦: 2025年1月18日(土)国語/数学/英語 ●一般: 2025年1月18日(土)国語/数学/英語面接
合格発表	2024年10月28日(月)15時30分~Web発表	2024年10月17日(木)12時~Web発表	●推薦: 2024年12月2日(月)Web 17時 ●一般1期: 2025年1月21日(火)Web 17時 ●一般2期: 2025年1月24日(金)Web 17時	●推薦: 2025年1月20日(月)Web 17時 ●一般: 2025年1月20日(月)Web 17時

編集後記 主役は園児・児童・生徒です。

1学期に行われた運動会や体育祭、2学期に全学挙げて行われる日出祭は、それを作り上げていくまでのプロセスで、各実行委員会や係など、すべての在園生の参加、協力がなくては成り立たず、今年で本学は創立90周年を迎えます。これまで続けてきた行事は、そうした在園生1人ひとりが主役となって作り上げられ、継続してきたもの。それが90年の歳月を経て、「伝統」という言葉に相応しいものへと昇華されてきたと言えるでしょう。

編集発行人 学校法人日出学園 学園長 青木 貞雄
学園通信「日出」Vol.44 2024年10月号

発行 2024年9月30日
編集発行人 青木 貞雄(学校法人日出学園 学園長)
編集 学園通信「日出」編集委員会
幼稚園 根岸わかな 中川多恵
小学校 田中秀明 新井麻由美 日下瑞穂
中学校・高等学校 石川 茂 大島恭平
法人企画室 児玉尚樹 児玉孝喜 渡邊広樹